

水俣病に考をよせる

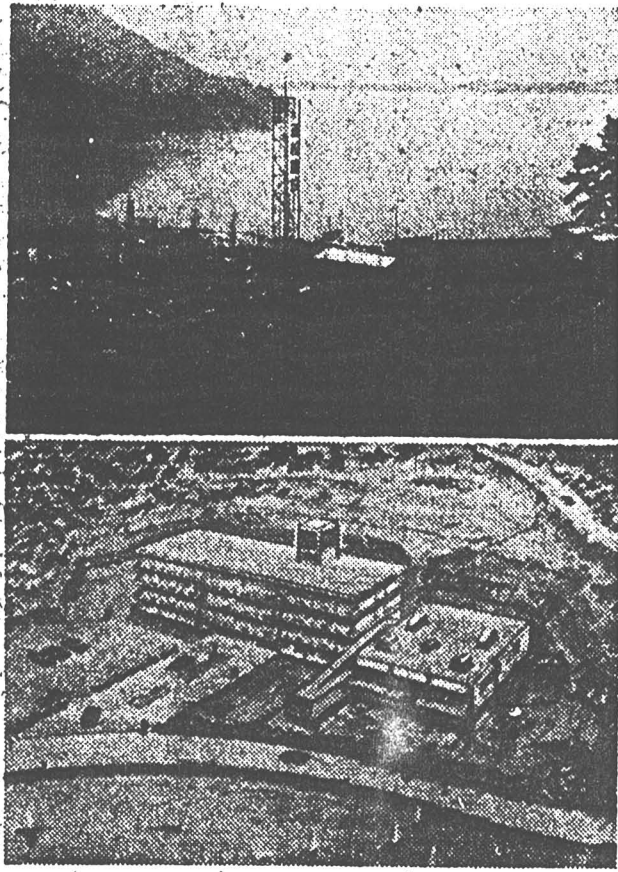
(13)

不知火海の波が打ち寄せ、はるかに天草の島々がかすむ。背後に緑の山が迫る。県立公園北海岸の一角を占める風光明媚な湯之原にいま温泉を利用したリハビリテーションセンターが建設されている。この「水俣市立病院湯之原分院」は、一月二十日に起工式をあげ、急ピッチの工事が進められている。

温泉病院の建設

同センターは水俣病患者を更生、社会復帰させるための治療と訓練が目的。水俣病患者にとって最大の、最良のフレストである。橋本市長、大橋病院長らの努力と希望がよまよく実ったもので、鉄筋コンクリート造り三階建て（将来は四階建てに拡張の計画）延べ二千四百平方尺。

本館は治療室、レントゲン室、手術室と八十四ベッドの病室。理療機能障害に対する回復訓練装置は千四十八平方尺で、平屋建て、湿浴装置が完備される。九州



湯之原に建設中のリハビリテーションセンター

その完成図（将来は四階建てに拡張される）

では初めての「塩水プール」もできる。塩水プールは機能訓練のひとつとして利用される。プールにはロープを張ってあり、患者たちはこのロープにつかまりながら泳ぐ。淡水よりもさらに浮力が強いので、大気中では動きにくいマヒした手足も、水の中では少ない抵抗で動く。動かすことによって手足もだんだん自由がきくようになる。水遊びを楽しみながら訓練するのが目的だ。

治療、訓練に最新設備

悩みは国庫補助問題

言わねば、泥浴施設もつくる。泥浴は皮膚の表面だけだけでなく、内部まで浸透するので、血液の循環もよくなり、水銀の体外排せじに

も効果を持つ。近海には適当な土質がないので、有明海のカタ土（海底土）を選び、さらに効果を高めるため、イオウ分を加えることになっている。このほか粘土、大工用灰、ミンなどを使った融解剤も用いられる。退院したあとの職業指導だけでなく、機能の訓練にも役立つ。

市立病院に入院している千一人の水俣病患者はもちろん、自宅で療養中の患者たちを優先的に入院させるため、三十ベッドを確保する。残ったベッドには一般の患者も収容する。中風、小児マヒなど神経症状による手足の不自由なものにとっても大きな福音となる。完成は七月末ごろだ。

またセンターの近くには国民宿舎建設の計画もある。鉄筋コンクリート地下二階、地上二階建て（一部三階建て）収容人員は百人。本年度から二カ年連続工事などで工の予定だ。総工費は六千五百万円のテラックスなもの。フェニックス、ヤシなどが茂る海岸道路公園も現在舗装工事が進められている。これらを含めて市内の、入ル入地区、が誕生する日も近い。のであるとはほほまでもな、

結構すくめのヘルム・センターの建設だが、市にとって一つだけ頭が痛いことがある。それは水俣病患者の国庫補助問題だ。現在の入院患者の治療はすべて費用。国、県、市が三分の一あて負担している。国の補助は治療研究費という名目で、厚生省が年間百万円を出している。センターが完成すればこれまで自宅療養をしてきた患者も入院する。最低五〇％の増額が必要だ。ところが昨年から大蔵省が一治療研究費には期間がある。そいつまでも水俣病患者も補助金を出せない」との態度をとりはじめた。厚生省ではそんな無茶な努力はしているが、増額などとはとも見込みない。現状を維持できれば上々、それらもいつ打ち切られるか疑問である。対策としては治療費に補助金がなるべく、法律改正をさすよりほかに方法はない。治療費に国の補助金が出ていないのは原簿患者だけである。このため法律改正を強く要望しているのだが...

ともあれセンターの建設は、水俣病患者にとっては最高の贈りものであることは疑いなく、